

NPO法人「としまの記憶」をつなぐ会 第2期通常総会 5月27日(火)



5月27日(火)NPO法人「としまの記憶」をつなぐ会 第2期通常総会を養老乃瀧池袋ビル4階YRイベントホールで行いました。第一部では議案として、平成25年度事業報告&平成25年度決算報告、決算に関する監査報告、事業計画案と収支予算案。第二部ではミニ上映会を実施し「撮影秘話&としまへの想い」ということで三浦昭生さん、



田崎不二夫さんから貴重なご意見も

山縣てる子さんの動画を上映。としまへの想いについて熱く語っていただきました。第三部の懇親会では参加者の皆様で交流。楽しく語らいながら過ごしました。皆様、有難うございました。



懇親会終了後、集合写真

みなさん、ありがとうございました

永島浩二さん
により乾杯!

八巻規子さん



山縣てる子さん



マイケルさん



長橋桂一さん



三浦昭生さん



尾上多喜雄さん



本橋弘隆さん

新作上映会のお知らせが
裏面にあります

昨年も大正大学、立教大学放送
研究会と連携して90タイトルの
動画を制作しました。



記憶エッセイ



第4回地域に記憶をつなぐ:

(その3) 庚申塔は江戸の記憶

必要があって千川上水の跡を辿り千早町三丁目辺を歩いていると、行く手を遮るものがある。今までは気が付いていなかったのですが、ここにこのようなものがあつたらうかと訝しく思いながら近づいてみると、庚申塔が3基並び丁寧に小屋掛けがなされて、近年整備されたらしく標柱も立っている。それによると、それぞれ「延宝八(1680)、貞享三 1686)、正徳元(1711)年」に作られたと書かれていて、300年以上前に建立されたことが記されている。それは丁度この千川上水が作られる元禄九(696)年の前後である。

庚申塔とは、60日に一度廻ってくる庚申(こうしん、かのえさる)の日の夜に講元の家に集まり経や真言を唱え眠らずに過ごす「庚申待」を象徴する遺品である。この信仰は古く古代の貴族に始まり遊びや宴と結びついていたというが、仏教、神道や講とも混合し、江戸時代には庶民の現生利益や娯楽と結びつき、特に江戸の近郊では大変に盛んになったとされる。

「庚申塔」は、この近辺の要町2丁目や高松2丁目にも、また巣鴨の庚申塚にも見ることができ、共に「庚申通り」の名も残っている。都内でもっとも有名なのは「柴又の帝釈天」題経寺であろうが、今でも庚申の日は大いに賑わう。

とはいえ、明治になると迷信として疎んじられて衰えたから、これを語る人が多くいるとは思えないが、お参りし、絵馬を納め、掃除をする人がいるから、江戸の記憶が今に繋がっているのも確かである。

千川上水跡の「庚申塔」
(千早町3丁目)

「としまの記憶」をつなぐ会 代表理事 山田智稔

message

市民目線の記憶を次に来る人々に繋げる!

イタリア発の「記憶を記録する」という「記憶の銀行(MEMORO)」が紹介されたのは、4年前のとしまNPO推進協議会の「社会貢献見本市」でした。その後多くの方々のご努力で、豊島の地に根付いた「としまの記憶」をつなぐ会として一本立ちし、今では将来1万本の豊島の「記憶の映像百科事典」を目指すまでに成長しました。



三浦 昭生

この運動が、語り手の皆さんや記憶を残すお手伝いをしてくださる学生さんなど多くの人に何故迎えられたのでしょうか。それは「記憶」の伝承を狙ったからではないかと思います。歴史の伝承でなく記憶の伝承だったからだとも言えます。

歴史と記憶の違いは何なのでしょう。歴史は事実の集合体ですが、記憶は一人ひとりの心や脳に残っているもので、歴史は客観的で記憶は主観的ではないでしょうか。時代の変化は年々スピードアップされ、記憶は時の経過やその人の想いや気持ちで事実と多少異なってその人なりに美化されたり、変化することがあって、記憶は生きているとも言えます。だからこそ一人ひとりの市民目線の記憶を次に来る人々に繋げることが大切になります。NPO法人「としまの記憶」をつなぐ会の活躍を期待する由縁でも有ります。

明治大学校友会豊島区地域支部支部長

6月14日(土) 池袋 あうるすぽっと

語り部27名の貴重な記憶の数々!

記憶の遺産2013「新作上映会」

「としまの記憶」をつなぐ会では昨秋、大正大学、立教大学の学生と語り部27名の方々の貴重な記憶をインタビュー、撮影、そして編集が終わりました。感謝をこめて、「新作上映会」のお知らせです。土曜日の昼下がり、ご家族、ご友人をお誘いの上、お気軽にご来場ください。

【日時】

平成26年6月14日(土) 14時～16時(開場は13時30分)

【アクセス】

「東京メトロ 有楽町線 東池袋駅」6・7 出口より直結
「都電荒川線 東池袋四丁目駅」より徒歩 2 分

【会場】

あうるすぽっと

3 階 A 会議室

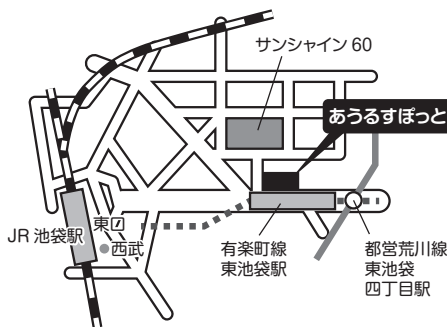
TEL : 03-5391-0751

豊島区東池袋 4-5-2

ライズアリーナビル3F

【定員】40 人

【参加費】無料



★上映予定作品の一部です。

●大正大学

「月給48円の学徒勤労動員」 内山 数子

「立教時代の長嶋茂雄」 田島 晴一

「池袋駅西口～闇市通りが通学路～」 藤原 弘明

「南北で違う戦いの池袋」 西脇 志づ

「アトリエ村の父の背中」 湯澤 久子

「戦火に消えた池袋第二小学校」 中島 育子

「藤堂家の裏門」 金井 皓子

「人とつながる人世横丁」 中村 規久代

「ガムが繋いだ巣鴨プリズン」 木村 武司

「遊び場だった東横百貨店のエスカレーター」 永島 浩二

「絵で遺した豊島区」 矢島 勝昭

「勉学に明け暮れた日々

～要町での学生時代～」 上原 すゞ子

「雑木林にかこまれていた雑司ヶ谷」 小澤 啓子

「高田第五国民学校 50 年目の修学旅行」 小笠原 重子

「焼け残った鬼子母神」 佃 正夫

「御輿が入った巣鴨プリズン」 三浦 昭生

「発足 千早タイガース」 山縣 てる子

「雑司ヶ谷に落ちた飛行機」 前田 繁

「池袋と栗島神社」 星川 茂夫

「豊島区初女性 PTA 会長」 釜井 甲子

「ミュージカルがつないだ豊島と上海」 外山 英男

「豊島区中心の七福神」 渡邊 隆男

「俺の通った玉突き場」 永島 直樹



平井憲太郎さん



池澤清治さん



中村規久代さん



渡邊 隆男さん



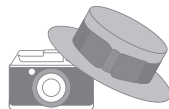
村中秀明さん

編集部から

皆様のあたたかいご支援とご協力により「第2期通常総会」も開催でき、本当に有難うございました。6月には「新作上映会」も実施致します。どうぞフレッシュな作品をお楽しみ下さい。

新 会 員 ご 紹 介

●高野之夫さん(76) 豊島区南長崎



1937年に豊島区に生まれました。地元の区立池袋第五小学校を卒業し、すぐ近くの立教大学に歩いて通いました。父親は池袋西口で古書店を経営していましたので、いつも本に囲まれている環境で育ちましたが、大学2年生の時に父が亡くなり店を継ぎ、古書店経営の傍ら区議会議員、東京都議会議員を経て1999年に区長に就任しました。

池袋は闇市の勢いによって発展した歴史がありますが、そのために良い方向に変化するための都市再生に遅れた感がありました。しかし、先人から引き継いだ池袋のまちを古い歴史や文化を大切にしながら、新しい文化を融合させ「安全・安心な文化都市としま」を区民のみなさんとともに創りたいと日々奮闘しています。どうぞよろしくお願いいたします。

●山口菊子さん(64) 豊島区池袋

昭和25年に、父が池袋4丁目で町工場をはじめ、大勢の住み込みの職工さんたちと私たち家族は、寝起きをともに暮らしていました。映画の「三丁目の夕日」そのものです。谷端川近くで、ときには川の氾濫があり、棟割り長屋が隣接し、原っぱもあり、紙芝居の周りには子どもたちが集まっていた。思い出す光景は「昭和」のイメージそのものです。

私が小学校のころに住まいを別に移し、両親は工場に通って商売をしていました。私は昭和49年に、その町工場の上階に住むようになり、現在に至っています。谷端川は暗渠になり、周辺は住宅が密集、池袋北地区の区画整理、川越街道や山手通りの拡幅、高速道路建設などで我が家のある池袋西口地域も大きく変わりました。まさに「今は昔」となっています。2人の息子たちは「池袋に住んでいる」と言うと、友人たちから「怖くないの?」と聞かれたそうですが、生まれ育った町なので、聞かれた意味がわからなかったようです。下町の人情のある、暮らしやすいまち・池袋に、私は誇りを持っています。



NPO法人「としまの記憶」をつなぐ会事務局
<http://www.toshima-kioku.jp>



FAX:050-3488-9494

✉ npo@toshima-kioku.jp

編集部・担当 吉田いち子090-3570-6826